

平成24年度

みやこユニバーサル デザイン賞

じゅ しょう さく ひん とり くみ しゅう

受賞作品取組集

一般取組・企画部門／青少年アイデア部門



ユニバーサルデザインとは

「すべての人のためのデザイン」と言われ、年齢、性別、国籍、能力など、様々な特性や違いを超えて、できる限りすべての人が利用しやすいようにまちづくりやものづくり、情報やサービスの提供を行っていかこうとする考え方のこと。

テーマ

まちづくり, ものづくり, サービスの提供, 普及活動, わかりやすい情報提供など
すべての分野を対象としたユニバーサルデザインに関する取組, 企画

「みやこユニバーサルデザイン賞 大賞・奨励賞」

大賞

みんな^{たの}で楽しもう「セロ弾きのゴーシュ」 京都リップル <http://kyoto-ripple.sakura.ne.jp/>

宮沢賢治作「セロ弾きのゴーシュ」朗読と人形劇+チェロとピアノの生演奏のイベント企画。朗読には日本語字幕を人形劇には副音声をつけます。

■ 京都リップルとは

聞こえない人のために日本語字幕, 見えない人のために場面や情景を説明する副音声をつけたユニバーサル上映の活動をしています。障害のある方とない方が自然に触れ合うチャンスにもなっています。リップル というのは波紋 という意味。京都から全国の各地へユニバーサルデザインの波が広がっていくことを願っています。



ハートフルシネマ会場の様子です。



司修さんの絵本「セロ弾きのゴーシュ」の原画を使った同様のイベント

聴覚障がい者も字幕を付けることで舞台を楽しむことができます。視覚障がい者は音楽や朗読の好きな方が多く, 特に生の声や演奏は大変魅力的です。視覚や聴覚に障害があると, 映画や舞台などは何らかのサポートがないと一般の方と同じように味わうことができないため, 芸術や娯楽を諦めている方が多いです。少しの工夫と支援で感動を共有することができるはずですよ。

審査員コメント

全ての人と同じ空間で過ごし, 理解しあう場面, 場所作りとして, 大きな期待を寄せたい。この活動がもっと広く認知されることを期待する。

奨励賞

みな^{いろ} あざやか^{まち} 皆の色鮮やかな町・京都プロジェクト

～色覚異常の人にも色鮮やかな京都を!～



色覚異常の人の見え方例

京都工芸繊維大学 星野^{ほしの} 有紀^{ゆき}



認定証

● 背景・提案

現在, 日本人男性の**20人に1人**, 白人の外国人では**12人に1人**が色覚異常であると言われています。(色覚障害の例: 緑色の背景に赤文字は見えづらいなど) **しかし** 現在, 色覚異常に対する意識は低く, 色覚異常の人による**誤操作や事故, 不便さ**が引き起こされています。そこで提案するのが, 色覚異常の人も考慮に入れた表記法の見直しで, 観光地・**京都がこの取組の先進**として, 色覚異常の人にも色鮮やかな**町づくりを全国に発信していく**という所に大きな意味があります。

● 改善案

■ 認定証をつける

色覚異常について考慮された制作物に対し, 認定証の提示を認める。
→①活動の広告 ②制作者のイメージアップ

■ 避難経路図

赤色の→と緑色の→で分けているのでどちらに逃げれば良いかわからない。

<改善案>→を点線や波線にかえる。



審査員コメント

今まであまり着目されていなかった視点からの発想が評価できる。「都市の活動」としても採択する価値がある提案である。

奨励賞

がいこくじん ぼうさい
外国人のための防災ガイドブック

公益財団法人 京都府国際センター



災害時の外国人住民支援体制づくりの一環として、普段からの防災知識の啓発を目的とした「外国人のための防災ガイドブック」を作成しました。京都府国際センターで無料で配布しています。ウェブサイトからダウンロードもできます。<http://www.kpic.or.jp/>



周りにいる日本人が説明できるように
外国語版には日本語を併記

英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語のほか、それ以外の言語を母語とする方々に対して外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」でも作成



審査員コメント

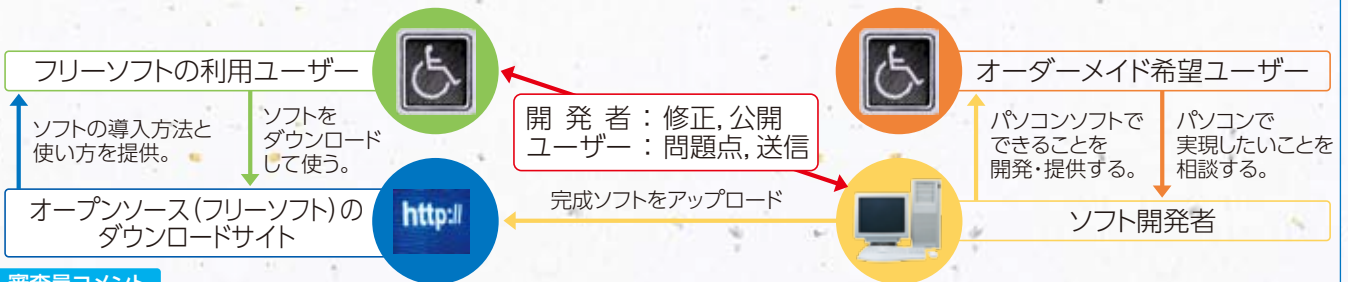
「外国人のための」としているが、実は広く日本人にとってもわかりやすい点がすばらしい。「やさしい日本語」はよく工夫されている。

奨励賞

しょう しゃ こうれいしゃよう かいほつ
障がい者・高齢者用のオーダーメイドソフト開発

やまもと あきのり
MIKAN Software 山本章巨

個人の障がいや認知に合わせたソフトを、**オーダーメイド**で開発し、障がい者・高齢者が、容易に導入・使用出来る仕組みを作り、健常者が使う場合との格差を少なくする取組。



審査員コメント

パソコンを新たな領域へ広げるものとして、そのユーザーのニーズに対応しようとする姿勢に共感した。

奨励賞

しゃかい ふくし ほうじん きょうと
社会福祉法人京都ライトハウスホームページ

社会福祉法人 京都ライトハウス

長年、視覚に障害のある方々のために運営してまいりました京都ライトハウスが50周年を迎えたことを機に、視覚に障害のある方々や利用者の方々に元気・勇気を持って生活していただけるよう企画・工夫をいたしました。



- 企画段階から、使用感、コンテンツ内容ともに、障害当事者と一緒に検討しました。
- 「通常の画面」と、「音声で閲覧する画面並びに文字認識がしやすい画面」の切り替えをできるようにしました。
- 音声画面においては、本題に入る前に何度も繰り返す案内を可能な限りそぎ落とし、聞きやすい環境を整備しました。

審査員コメント

視覚情報中心であるホームページの現状から良い方向に生み出される予感がある。

みやこユニバーサルデザイン賞とは

京都市では、だれにでも利用しやすいものやサービス等の普及を目指す、ユニバーサルデザインの考え方を多くの皆様にご存知いただくとともに、ユニバーサルデザインの取組を促すことを目的として、市内の団体、事業者、学校、個人等のすぐれたアイデアや実践活動を「みやこユニバーサルデザイン賞」として顕彰しています。

今年度は、6月1日(金)から9月10日(月)の間(一般取組・企画部門は7月2日まで)で募集を行い、京都市みやこユニバーサルデザイン審議会における部会での厳正な審査の結果、みやこユニバーサルデザイン賞を決定いたしました。

■ 審査員

氏名	所属・職名等
塚田 章	京都市立芸術大学教授<部会長=審査委員長>
藤松 素子	佛教大学教授<副部会長=副審査委員長>
北見 貴志	神戸夙川学院大学客員講師(バリアフリー旅行ネットワーク副会長)
神門 佐千子	京都YWCA会長
古賀 真吾	市民公募委員(グラフィックデザイナー)
斎藤 紀子	NPO法人コンシューマーズ京都理事
高山 良雄	京都新聞社会福祉事業団常務理事・事務局長
中川 一良	京都市児童館学童連盟常務理事・統括監
長屋 博久	京都市PTA連絡協議会会長
本田 里美	京都弁護士会弁護士
南 隆明	京都商工会議所常議員・観光産業特別委員長
村上 好夫	京都商店連盟副会長
森本 一成	京都工芸繊維大学教授

■ 平成24年度みやこユニバーサルデザイン賞 受賞(応募)概要

一般取組・企画部門

大賞1件 奨励賞4件
(応募件数 12件)

青少年アイデア部門

アイデア賞8件
(応募件数 682件)

多数の御応募ありがとうございました。

審査委員長の所感

応募作品の中からプレゼンテーション審査対象とした5作品はそれぞれ特徴があって興味深いものでした。大賞には京都リップルの「みんなで楽しもう「ゼロ弾きのゴーシュ」」が選ばれました。京都リップルの取組は、同じ空間で、目の不自由な方、耳の不自由な方と健常者が同時に楽しむ事の大切さを主張するもので、ユニバーサルデザインの基本に沿った作品であると高

い評価を得ました。

また、奨励賞には審議の結果4作品を選定しました。大賞の作品と比べると、奨励賞の各作品は広く誰もがという部分が弱くなっており、ユニバーサルデザインを押さえていますが、ある特定の方々にスポットを当てた取り組みの提案でした。

■ 問い合わせ先

きょうとし ほけん ふくしきょく ほけん ふくし そうむか すいしんたんどう
京都市保健福祉局保健福祉総務課 **みやこユニバーサルデザイン推進担当**

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

TEL. 075-222-3366 FAX. 075-222-3386

Eメール hofukusoumu@city.kyoto.jp

ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000051996.html>

